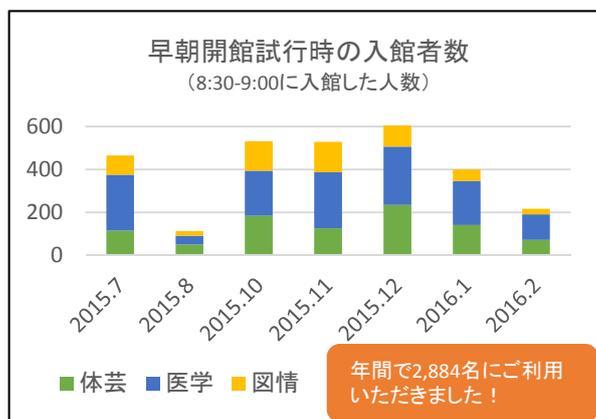


平成27年度 筑波大学附属図書館 事業報告

専門図書館の開館時間を延長

学習支援



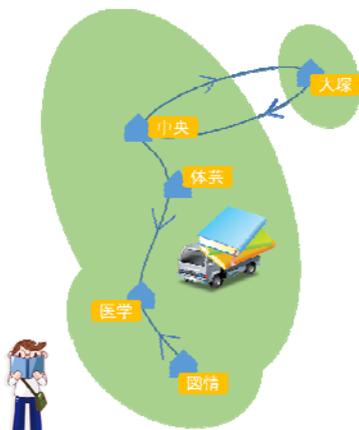
筑波地区の専門図書館の開館時間を30分早め、中央図書館と同様の8時30分開館としました。

加えて、医学図書館では、医学類の授業実施期間に合わせ、休業期間中の開館時間の延長を行ないました。これにより、医学類の授業実施期間が大学の学年暦とずれていることから生じていた不便を解消することができました。

また、社会人学生の利用が多い大塚図書館では、年末年始の時間外開館を実施したところ、通常期の土日並みの利用があり、休暇中に集中して学習したいという学生の需要に応えることができました。

筑波地区の各図書館間での図書の取寄せサービスを開始（試行）

学習支援



従来の、筑波地区の各図書館⇔大塚図書館間の図書の取寄せサービスを拡充し、筑波地区内の各図書館（中央・体芸・医学・図情）の図書をどの館にも取り寄せることができるサービスの試行を開始しました。返却についてはすでにどの館でも返せるサービスを実施していますので、今回の試行によって「どこからでも取寄せができ、どこにでも返却できる」環境が整いました。同一キャンパスとはいえ、各館間の移動に自転車・バス等が必須なほど広大な敷地を持つ筑波大学の学生にとって、利便性の高いサービスであるといえます。

春休み期間の試行を経て、平成28年度も試行を継続することが決定しました。

ラーニング・スクエア リニューアル

学習支援



チャットフレーム

中央図書館2階ラーニング・スクエアの一部の書架・資料を移動し、グループ学習スペースを3倍以上に拡大しました。

広々とした新スペース「チャットフレーム」には、グループ学習に便利なテーブルや椅子、ホワイトボードなどを配置し、ディスカッションやセミナーにも活用できるようになっています。事前に申し込んでいただければマイクを使ったイベント等の開催も可能です。なお、従来通りの静寂スペースも別フロアに確保してありますので、用途によって使い分けていただくことが可能です。

また、新着図書や本学出版会刊行の図書を、これまでよりも目立つよう入館ゲート近くに移動しました。

ライティング支援ポータルへの参加

学習支援



ライティング支援ポータルの画面

ライティング支援を強化するため、学内で類似の取組みを行なっているグローバル・コモンズ機構等と協力体制を構築し、TAの研修体制等について検討を行なったほか、全学のライティング支援の取組みを集約した「筑波大学ライティング支援ポータル」を図書館サイト内に開設しました。

ライティング支援ポータルでは、レポートの書き方などのいわゆる「アカデミックライティング」をサポートする中央図書館ラーニング・スクエア内の学生サポートデスクのほか、留学関係書類や外部資金の応募書類などの作成をサポートする学内のサービス拠点も紹介しています。

各種セミナーの実施

学習支援



LAセミナーの様子

平成27年度は、学習を支援する各種セミナーを18回開催し、402名が参加しました。このうち、ライティングセミナー、ラーニング・アドバイザーによるセミナー（LAセミナー）、英語多読入門セミナーについては、中央図書館2階ラーニング・スクエア内のグループ学習スペース及びラウンジにて開催し、そのオープンな雰囲気が高評価を博しました。

また、こうした学習支援の体系化のために従来の実施内容の点検を行い、図書館における学習・教育支援の体系図を策定しました。

「筑波大学オープンアクセス方針」採択

研究支援



OA方針説明会の様子（芸術系）

学内の教育研究成果を網羅的に収集・発信し、本学の認知度を向上させつつ社会貢献及び学術研究の発展に寄与するものとして、11月19日に「筑波大学オープンアクセス方針」を学長決定により採択しました。これにより、今後は、学術雑誌に掲載された本学教員の論文等は、「つくばリポジトリ」に登録してインターネット上で公開することが原則となります。

本方針の周知のため、教員所属組織を対象に13箇所で開催したところ、400名を超える参加がありオープンアクセスに対する関心の高さが窺えました。

今後は、本方針の実施によりつくばリポジトリへの論文登録率が増加し、大学のブランド力の強化が期待されます。

Web of Science Citation Connection等の導入

研究支援



Citation Connectionのデータベース

トムソン・ロイター社の引用文献索引データベースWeb of Scienceに、Citation Connectionを追加しました。これにより、主題に特化したデータベースの検索や、学術雑誌だけではなく、書籍情報、研究データ、特許情報など幅広い検索が可能となりました。

このほか、全学で整備中の電子ジャーナルのうち、バックファイルの利用の要望の多いWiley社の26タイトル、電子ブックとして継続的に整備しているSpringer社のComputer Science分野のeBook(2016)1,125タイトル、学生の語学力向上のための基礎的な英語図書としてInfobase Learning eBooks Collections 1,285タイトルを整備しました。

「研究不正防止」キャンペーンを実施

研究支援



研究不正防止の図書展示

学生のうちから研究倫理に関心をもってもらうため、中央図書館ほか各専門図書館4館の全館で一斉に、研究不正防止キャンペーンを実施しました。5月25日から7月28日まで展示を行なった中央図書館では、メインカウンター前に設置されたポスターや図書に、多くの学生や教員が足を止める姿がみられました。

附属図書館では、このほか、大学院生向けのセミナー「大学院生入門：自分を守る情報リテラシー」の開催、新入生全員が受講する「フレッシュマンセミナー」において著作権やコピーアンドペーストの問題に触れるなど、研究不正防止について積極的な取り組みをおこなっています。

また、これらの取り組みが注目され、他地区の大学図書館研修会に本学職員が講師として招かれて、本学での事例について講演を行いました。

図書館ボランティア20周年

社会貢献



記念式典の様子

6月1日に、附属図書館ボランティア20周年記念式典を開催しました。附属図書館ボランティア制度は生涯学習を目的として平成7年に開始され、毎年約50名が登録し活動を続けています。活動内容は、留学生に対する英語やその他の外国語での利用案内、視覚障害者に対する対面朗読サービス、高校生などへの館内見学案内、図書修理、書架整理などさまざまです。

20周年記念式典にはボランティアを中心に、永田学長をはじめとする学内関係者、図書館関係者など108名が参加し、学長からボランティア代表へ感謝状が贈られたほか、記念講演などが行なわれました。

「よみがえる湯島聖堂本尊孔子像彩色復元特別展」を開催

社会貢献



内覧会の様子

4月3日から12日まで、中央図書館において、本学が所蔵する湯島聖堂・昌平坂学問所伝来の美術資料を一般に公開する特別展を開催しました。

これは、このたび彩色復元が完成した湯島聖堂大成殿孔子像を中心として、平成12年に附属図書館より発見された狩野探幽筆「野外奏楽・猿曳図」屏風をはじめとする江戸前期の美術品や昌平坂学問所関係文書を展示したものです。

会期中は、短い期間であったにもかかわらず、学内外から1,574名が訪れました。また、AERAや朝日新聞・東京等新聞各紙に記事が掲載されたほか、テレビでも紹介され、注目の高さが窺えました。

平成27年度筑波大学附属図書館特別展「数学の叡智—その探求と発展—」を開催

社会貢献



医学医療系・讃岐勝研究員による
ギャラリートーク

毎年、中央図書館において恒例となっている特別展は、9月28日から11月8日まで、附属図書館が所蔵する数学関係の貴重な資料を一般に広く公開するものとして、人間系との共催により開催しました。

展示会では、ユークリッドの「原論」、アポロニウスの「円錐曲線論」など著名な数学者の貴重書に加え、和算に関する資料など約30点を展示しました。また、透視図法によって描かれた「だまし絵」を体験できる展示も併せて行い観覧者の関心を集めました。

会期中には教員による特別講演会やギャラリートークなどもあり、学内外から2,898名が訪れました。

図書館ホームページをより使い易く 英文サイトも充実

情報発信



視覚障害者向け読み上げ対応ページ

附属図書館のホームページをより使い易く便利にするため、機能の改良を行ないました。

利用者からの要望に対応するために、サイト内検索機能の追加やマイライブラリーへの貸出履歴照会機能の追加などを行い、ディスカバリーサービス機能のさらなる充実を図りました。

加えて、留学生へのサービス向上と国際的な視認性を高めるために、英文サイトを充実させました。現在は、日本語サイトの6割程度が英文サイトとして利用可能となりました。

また、視覚障害者によるホームページの利用を考慮し、読み上げ対応ページを作成しました。ページの作成にあたっては、視覚に障害のある本学教員のご意見を伺いながら内容を検討し、テキスト版を作成しました。

動画を活用した広報活動を推進

情報発信



ホームページ内のチュートリアルムービー画面

平成27年度は、動画による広報に力を入れました。

まず、附属図書館の利用方法について、よりわかり易くお伝えするために、チュートリアルムービーを作成してYouTubeにアップするとともに、図書館ホームページにて公開しました。動画は、「自動貸出機の使い方」「返却の期限の更新方法」など図書館の基本的な利用についての動画15本で、1本3分程度で見終わることができるようにしています。

また、公式Facebookでは、事務室内を紹介する記事を「筑波大学附属図書館：事務室ウォークスルー」と題して動画とともに公開し、8月21日の公開以降、これまでに15,161アクセスがあり、5,549回再生されています。

<https://www.youtube.com/channel/UCrjLty5gHy3ZYmwJjU5TMwg>

平成28年度は、附属図書館により親しみを持ってもらうためのプロモーションビデオの制作を予定しています。

図書館キャラクターの活躍

情報発信



永田学長に受賞を報告するがまじゃんぱー

筑波大学附属図書館のキャラクター「がまじゃんぱー」が、第17回図書館総合展（11月10日(火)～12日(木)、パシフィコ横浜）で開催された「図書館キャラクター・グランプリ」において、「館の働き者」部門グランプリと審査委員会賞を受賞しました。

図書館総合展は、全国の図書館および関連業界の団体・企業等のための国内最大のイベントで、今回初めて開催された「図書館キャラクター・グランプリ」には、あわせて146組が名乗りを上げました。がまじゃんぱーは、知名度を活かした働き、10年に渡る積極的な活動が高い評価を得ました。

2006年に誕生したがまじゃんぱーは、その親しみやすさにより、図書館の広報物、講習会でのスライドやプロモーションビデオ、SNSなど様々な媒体を通じて活躍し、附属図書館の広報活動に貢献しています。